

平成29年第2回豊後高田市議会定例会会議録（第4号）

○議事日程〔第4号〕

平成29年6月29日（木曜日）午前10時0分開議

※開議宣告

日程第1 第31号議案

（委員長報告・修正案の説明・委員長報告及び修正案に対する質疑・討論・表決）

日程第2 第29号議案、第30号議案及び第32号議案並びに第1号報告から第4号報告まで

（委員長報告・委員長報告に対する質疑・討論・表決）

日程第3 第33号議案

（提案理由説明・質疑・討論・表決）

日程第4 第34号議案

（提案理由説明・質疑・討論・表決）

日程第5 第35号議案

（提案理由説明・質疑・討論・表決）

日程第6 第36号議案

（提案理由説明・質疑・討論・表決）

日程第7 意見書案第1号

（提案理由説明・質疑・討論・表決）

日程第8 選挙管理委員の選挙

日程第9 選挙管理委員補充員の選挙

○本日の会議に付した事件

議事日程に同じ

○出席議員（18名）

1 番 安 達 かずみ
2 番 中 尾 勉
3 番 黒 田 健 一
4 番 甲 斐 明 美
5 番 井ノ口 憲 治
6 番 阿 部 輝 之
7 番 土 谷 信 也
8 番 近 藤 紀 男
9 番 成 重 博 文
10 番 安 達 隆
11 番 松 本 博 彰
12 番 河 野 徳 久
13 番 安 東 正 洋
14 番 北 崎 安 行

15 番 河 野 正 春
16 番 山 本 博 文
17 番 菅 健 雄
18 番 大 石 忠 昭

○欠席議員（0名）

○職務のため議場に出席した事務局職員の職氏名

事 務 局 長 水 江 和 徳
主幹兼庶務係長 次郎丸 浩 一
議 事 係 長 板 井 保 明
主 査 小 門 敏 宏

○説明のため議場に出席した者の職氏名

市 長 佐々木 敏 夫
総 務 課 長 佐 藤 之 則
財 政 課 長 飯 沼 憲 一
企 画 情 報 課 長 藤 重 深 雪
地域活力創造課長 川 口 達 也
税 務 課 長 近 藤 幸 一
保 険 年 金 課 長 丸山野 幸 政
社 会 福 祉 課 長 植 田 克 己
子育て・健康推進課長 安 田 祐 一
ウェルネス推進課長 伊 南 富士子
人権・同和对策課長 清 水 栄 二
環 境 課 長 後 藤 史 明
商 工 観 光 課 長 河 野 真 一
農業ブランド推進課長 藤 原 博 文
耕 地 林 業 課 長 都 甲 賢 治
建 設 課 長 永 松 史 年
上 下 水 道 課 長 大 力 雅 昭
会計管理者兼会計課長 尾 形 稔
農業委員会事務局長 佐々木 真 治
選挙管理委員会・監査委員事務局長
土 谷 恒 男
消 防 長 宗 高 徳
総務課 人事給与係長 伊 藤 昭 弘
総務課 総務法規防災係長兼秘書係長
近 藤 毅
教育委員会
教 育 長 河 野 潔
教育庁総務課長兼地域総務一課長
安 藤 隆 治

教育庁学校教育課長	小 川 匡
教育庁文化財室長	板 井 浩

○議長（安達 隆君） 皆さん、おはようございます。これより本日の会議を開きます。

○議長（安達 隆君） 日程第1、第31号議案を議題といたします。

これより、第31号議案について委員長の報告を求めます。

総務委員長、中尾 勉君。

○総務委員長（中尾 勉君） おはようございます。総務委員長報告をいたします。去る6月23日、総務委員会を開催し、本会議から付託されました第31号議案の審査結果を報告いたします。

第31号議案、「豊後高田市長の給料月額及び退職手当の特例に関する条例の制定について」は、市長の現任期に係る給料月額及び退職手当について、給料月額については、100分の50を乗じて得た額とし、退職手当については、支給しないこととする特例措置を講ずるものです。

審査の中で委員より、「今回の条例制定による影響額について」や「期末手当について」の質疑が出されました。

本議案については、反対の討論及び賛成の討論がありました。

審査の結果、第31号議案については、採決の結果、賛成少数により原案を否決すべきものと決しました。

以上で、第31号議案の審査結果の報告を終わります。

○議長（安達 隆君） 以上で、委員長の報告を終わります。

本件に対しましては、土谷信也議員ほか1名から修正案が提出されました。

提出者の説明を求めます。

7番、土谷信也君。

○7番（土谷信也君） 皆さん、おはようございます。議席番号7番、豊翔会の土谷信也でございます。第31号議案の豊後高田市長の給料月額及び退職手当の特例に関する条例の制定についてに対する修正案のご説明を申し上げます。

第31号議案の内容につきましては、市長の給料月額を半額とし、退職手当なしとする条例の制定であります。

今回提案いたしました修正案につきましては、この条例案の市長の給料の減額率100分の50を100分の8

0とするものであります。

理由といたしましては、市長は選挙公約で給料を半減するというのを掲げ当選されたわけですが、給料には労働の対価というものがあります。その中には、労働対価の原則、生活保障の原則、市場価格の原則などに沿って、この対価というものがあります。給料を半額にしたとしても、佐々木市長は生活していくことができないことはないと思います。しかしながら、豊後高田市の先頭に立って職員の何倍もの働きをしていただかなければなりません。そのような立場の市長が、課長級よりも給料が低いようではいけないと思います。

本市以外では、県内7市が減額しているようですが、減額率は3%から17%の削減であります。

現在、副市長は不在ですが、副市長の支給総額は年間約1,002万円と伺っております。私は、市長の給料は、この副市長の支給総額1,002万円を上回らなければならないと考えます。佐々木市長は、給料半額は現任期限りと言っておられますが、今後市長という職につくには、金銭面でかなり余裕のある方にしかなれないというような、社会的に大きな影響を与えるのではないかと危惧をしております。

以上の理由により、本修正案を提案するものでございます。

なお、予算については、減額の補正予算案が提案されておりますが、今後、副市長人事に伴い、さらに調整の必要があろうかと思えます。12月定例会などで一般職員の給与の調整と合わせて、執行部にお願いしたいと思えます。

議員の皆様には慎重審議をいただき、この修正案にご賛同をいただきますようお願い申し上げ、説明を終わります。

○議長（安達 隆君） 以上で、提出者の説明を終わります。

これより、ただいまの委員長報告及び修正案に対する質疑に入ります。

質疑はありませか。

4番、甲斐明美君。

○4番（甲斐明美君） 総務委員長にお伺いします。

○議長（安達 隆君） 甲斐委員、質疑席に移動してください。

4番、甲斐明美君。

○4番（甲斐明美君） 総務委員長にお伺いします。

総務委員会の中で、修正案の内容についてどのような議論があったのかお伺いしたいと思います。

○議長(安達 隆君) 総務委員長、中尾 勉君。

○総務委員長(中尾 勉君) 先程土谷議員のほうから説明がありましたように、労働の対価という部分の観点から、やはり市の先頭に立っていく職員が副市長、それから課長職の給与よりも低いという部分については、適正でないというふうな議論がありました。また、先程にありましたけども、県下の市長の減額率についても、もう3から15%というふうな部分で、やはり今後市長になられる方について、佐々木市長については余裕があるのかなのか私にはわかりませんが、やはり今後市長になられようという、市長の任期4年ですけども、またその次の次という形でそういった部分が影響にならないような形でというふうな議論がありました。

以上です。

○4番(甲斐明美君) 質問を終わります。

○議長(安達 隆君) ほかに質疑はありませんか。
18番、大石忠昭君。

○18番(大石忠昭君) 日本共産党の大石忠昭でございます。私は、修正案の提案者、土谷信也議員に質疑をいたします。

市長が選挙公約に基づいて、みずからの給料を7月分から45カ月間任期中、半額にすると、4年先にもらう退職金をもらわないと、ゼロにするという議案に対して、それでは悪いと、こちらのほうをこういうふうに修正するという案が出されました。

議員一人一人は、この本会議場において12分の1の賛同者がおれば、高田でいうならば18人の定数ですから、もう一人賛成者がおれば、誰でも修正案が出すこと、あるいは条例案を出す権利を持っています。審議をすればいいことなんです。

しかし、この今回の市長が提案した議案は、おそらく豊後高田市始まって以来のこういう案件だと思うんです。だから、どうも私のいないところで議論になったということを聞きましたが、この市長から提案された議案は、特別委員会を設けて、そこに提案して、そこで集中審議をしようという話があって、全国議長会まで問い合わせた経緯がありまして、20日の日に正式な議会代表者会議が開かれまして、その報告を受けました。結果的には、やっぱりこれまでどおり、これは総務委員会で審議をする議案だから、総務委員会に付託をして集中審議をしてもらおうということになりました。議案については、市長から提案される、あるいは議員からも提案されるその議案が本会議においても質疑ができますけれども、

その議案が県議会でも市議会でも町議会でも、それぞれ所管の常任委員会に付託されて、ここで集中審議がされます。これは本会議と違って、時間制限がありません。回数制限もありません。質疑・意見を述べることができます。当然この中で修正案を出すこともできます。あるいは休憩として調整することもできます。

提案者の土谷信也議員は、もう議会運営委員長の仕事について3年目に当たります。総務委員会の委員でもあります。ここで市長提案の議案質疑が行われましたが、議案質疑は一言もありませんでした。討論の中で、先程述べましたような同じ趣旨の反対討論がありました。

しかしながら、先程日本共産党の甲斐明美議員が総務委員長に質疑をしました。この内容は、総務委員長、質疑の内容を理解していなかったと思うんです。修正についてどういう議論がされましたかという質問だったと思うんです。ところが、そのことについては一言もありません。総務委員会では誰からも修正案が出されませんでした。休憩をとって、市民が納得できるような議論はされませんでした。だから、私はいろんな角度から、今後市民にとって賛成することが有利か、反対することが有利か、自分なりに本会議でも、この総務委員会でも質疑をしたつもりです。後はないから、満場一致で決まるのかなと私は思っていました。ところが、今言いましたように、土谷議員が反対討論、北崎議員も反対討論をされました。反対討論の中で、北崎委員は社長と専務の話がされまして、社長が専務より給料が安かったらいいかなものかというのもやりました。もうどんな議論をするのも自由です。結構です。しかし、その中で、だから、佐々木市長の給料を半額にするのはいいかなものかと、修正したらという討論の中で述べたのです。しかし、委員長はこれを取り上げませんでした。そのまま表決に入りまして、賛成の方は挙手願います。賛成したのは、大石と黒田議員だけでした。あと別に、議長も総務委員ですからおりましたけれども、何も物を言わないまま座ったままで、いわゆる賛成2反対3で否決をされるという結果になったんですね。新聞に書かれたとおりです。

だから、私は、提案者の土谷議員に質問をしたいんですけれども、ここで修正案を堂々と出す。皆さんに表決を求める。それは権利として充分あります。しかし、本人が議会運営委員長を務める、あるいは総務委員のメンバーであるといったら、何でそれが、

あなたの今ここで提案する修正案が本当に確信を持って市民のためになると言うんならば、総務委員会で「大石さん、もう言わんでええ。市長が選挙でこう言うたけど、もうこういう形で調整できんかえ、100分の50あるいは100分の60、100分の70、80、90、いろんな案を出して、何とかこういうことで調整できんかえ」という議論をした結果、それでも多数決で決まったというんならば、委員長報告の中で「総務委員会の中で慎重審議をした結果、市長の提案をこういうように修正しました。議員の皆さん、ご賛同をお願いします」なら、それはよくわかることなんだと思うんですね。こういう議論を踏んでいないんですよ。しかし、誰でも本当、修正案を出すことはできます。それを否定したいんじゃないですよ。

よって、お尋ねしたいんですけども、原案が給料の月額を7月分から半額に減額する、そして退職金は全然受け取らない、ゼロにするということなんですね。修正案は、退職金はそのままでよいと。そして、給料だけは7月分から100分の50の半額じゃなくて100分の80、2割だけ市長が受け取る金額を少なくしようという提案なんですね。市民は、100分の50カットが市民にとって有利なのか、100分の80カットが有利なのか、注目していると思うんですよ。それは、市長が提案した100分の50、市長の公約の100分の50よりは、100分の80のほうが市民にとってこれはメリットがあるんだと、市民にとって利益になるんだという説明ができれば、説明をしていただきたいと思います。

それから、もう一つは、予算の関係なんですよ。これも本会議で述べましたように、何か佐々木市長になったら、ため込み金120億円を何か市長の会社の有利なほうに使うんじゃないとか云々というようにいろんなうわさが流れましたけども、今度出されている予算が減額しているんですよ。土木費は、去年の6月を見たら、約8億円土木費を減額しておるのね。箱物をつくらないとも言い出しました。そして、自分の給料を減らすということで、今回は総額で357万2,000円。永松市長が提案しておった、そして議会で議決したこの予算を、357万2,000円減額するという減額予算をやってきたんですよ。そして、条例案については100分の50であり、100分の80にするんだとなったこの予算、もう一緒にあわせて修正案を提案しないと、矛盾しているんじゃないですか。

日本共産党市議団がことしの3月に、子どもの医療費を中学卒業するまで通院も無料にするという条

例を出しました。これは、新しい市長ができるから、新しい市長が予算をつければ、10月1日からならば、条例だけは永松市長時代に議員の力で制定しておれば、新しい市長が必ず予算をつけてくれるということで、10月1日施行で条例を出したんです。これは否決されました。その理由の一つに、予算の管理が問題だと言われました。これは、私は予算が議員が出すんじゃない。新しい市長が出せばいいのだから。ところが、本来の給与の減額で、佐々木市長はもう給料を半額でいいからちゅうことで予算を減額しているのに、予算は修正しないちゅうのは矛盾しているんじゃないかと思うんですね。これも2人以上、1人賛成者と本人で2人で、そうやって出せば、修正案出せるんですよ。なぜ出さないのか。何か副市長のものと調整だと。副市長の予算は、3月の議会の予算からされております。条例どおりに副市長に報酬を出すことになっています。だから、減額修正もしないと矛盾しているんじゃないかと思いますが、土谷議員の見解を求めます。

以上です。

○議長（安達 隆君） 7番、土谷信也君。

○7番（土谷信也君） 大石議員の質疑にお答えをします。

100分の50を100分の80にしたという件につきましては、どういう効果が出るかということでございますが、今の時点では、効果というのはいはっきり申し上げることができません。修正案につきましては、今説明を申し上げたとおりでございます。

委員会の時に修正ということが出なかったということでございますが、その時にはまだ、今、大石議員言われたように、100分の60にするか70にするか80にするかと、そういういろんな調査もありますし、そういう検討中のところでございました。

それから、この予算案についてでございます。357万2,000円の予算でございますが、これも説明で申し上げました。副市長のことも言われましたが、副市長、今不在でございますので、本来ならば、この6月議会で副市長の不在の分、4月分、5月分を減額をしないとイケないと思いますが、ここはまだやっておりません。ですから、この修正案が決まりましたら、私言ったように、12月でも予算的には今の予算で賄える状態でございますので、いかれると思う。そういうことで、一緒には予算は提案をしませんでした。

以上でございます。

○議長（安達 隆君） 18番、大石忠昭君。

○18番（大石忠昭君） 提案者の土谷議員にもう一度お尋ねをいたします。

今、100分の50と100分の80との関係で、修正したからと、どういう効果があるかということは具体的に述べられませんでした。そのとおりだと思います。

もう一度聞きたいのは、総務委員会で修正案を出さなかった、それはどれだけの修正率にするかまだ固まっていなかったと。これも一理ありましょう。ここで聞きたいのは、それならば、100分の50が間違いで、提案された100分の80が正しいというならば、この議員の、あなたの所属している会派が一番大きい、部屋には別な会派が2人おります。7人あわせたらありますけどね。何か別な会派ともこういう、まあ会派というのは、政策で一致というように議会基本条例に書かれておりますけれども、政策が一致しとると思うんだけど、日本共産党の会派には、この修正案に協力してくれという話は全くありませんでしたが、ほかの会派にも協議を持ち込む、あるいは、この修正案の提案に賛同を求めるような協力要請をされたのか。きょう、何人かの議員に聞きました。議長にも聞きました、どうなのかえと。それぞれ意見を聞いております。ここは公開しません。土谷議員に、その総務委員会で各会派の代表がおります、総務委員会のメンバーの中でも。ここで集中審議していなくて、そこで決まっていなくて、いよいよ決まって100分の80が正しいと言うんならば、ほかの会派の意見も聞いて、調整をして100分の80ということになったのか、それとも、あなたと北崎議員の2人だけの思いつきで100分の80なのか明らかにしてもらいたい。

なぜそれを申し述べるかといいますと、総務委員会で否決したという記事がそれぞれ新聞に載りました。その中に、市長のコメントも掲載された新聞もあります。私なんかは多くの市民と接触ありますので、もういろいろ一番これを問題にしているのは有識者の方ですね。本当に偉い方々、知識層の方々が一番反応しました、今。一番市長にとって不利な感想は、この市長のコメントを見て、「ああ、これは市長選挙の時に議員と話ができたんじゃないかえ、大石さん」と。「いや、そんなことないですよ」と。私はその真相わからんけど、市長は選挙のパフォーマンスで5割カットをやっちゃって、出したら、議会が否決するんじゃないかと。

○議長（安達 隆君） 大石議員に申し上げます。

質疑が議題の範囲を超えていると思いますので、質疑は議題の範囲内でお願いします。

○18番（大石忠昭君） いや、超えてない。超えていないと思います。大事な点なんです。市民の代表の言論の府で大事なことを言っているんですよ、市長にとっても。だから、市長もますます政治不信広がると思いますよ。そんなことはないとは私は否定しています。

同時に、私がさっき言うたように、総務委員会で慎重審議した結果なら、それは理解しやすいと思うんです、市民はね。ところが、土谷信也議員、市長との関係ちゅうのは、誰も知らんもんじゃないでしょう、どういう関係にあるかというのは。そこが出してきた、北崎議員と2人で出してきたということが、やっぱりそういう疑問が生まれるのかなと思って、残念です、私は。

それから、同時に、本音は、市長が給料を半分に下げられたら、市議会議員に跳ね返るという本音があるんじゃないかということも、多くの市民から反応があります。だから、やっぱり我々は市民の代表として、市長も変わった、市長は給料を半分にしても、30年間の県議会議員の経験を活かして市民のためにもっと働く、恩返しをしたいちゅうんですよ。すばらしいことじゃないですか。そうでしょう。市議会議員も市長に負けないように、一緒になっていいことは推進する、悪いことはストップかける、そういう役割を果たす必要があると思うんですね。だから、慎重に審議が要ると思いますので、もう一度、土谷信也議員、この100分の50が悪くて100分の80が正しいんだちゅうことを市民にわかるように説明してください。

以上です。

○議長（安達 隆君） 7番、土谷信也君。

○7番（土谷信也君） まず、最初の質疑にお答えをします。

ほかの会派に100分の80ということを相談していただいたかということでございますが、大石議員の言われるように、私の部屋には豊翔会、それから新政会の2会派がおります。その方たちにはそういう削減率も相談をしまして、100分の80ということで決定をさせていただきました。ほかの会派の方には、私からは直接はお願いはしておりません。

それから、大石議員が私と市長の関係ということを言われましたが、今回の選挙ももう皆さんが知ってのとおりでございます。市長の公約、これは市長

が決めたことです。我々は二元代表制でございます。市長は市長の選挙、議会は、議員は議員の選挙で、公約を上げたわけですけど、そういう話ができていたかと。大変これは失礼な話じゃないかと思います。当然そういうことはありませんし、公約に対しても、市長の掲げた公約は、全て我々が賛成するということではございません。これからのいろんな公約、6つ出しましたが、今給料半減と、1件目ですが、これからの公約についても、しっかり議会として審議して対応してまいりたいと思います。

以上でございます。

○議長（安達 隆君） 18番、大石忠昭君。

○18番（大石忠昭君） 再質疑をいたします。

2回答弁を聞きましたが、私は、この修正案については市民の賛同は得られないと思うんですね。よって、本当にそれが市民にとって効果があるというんならば私も賛成しますけれども、効果がないと思います。よって、土谷議員に撤回する意思がないか、もう一度聞きたいです。

それから、議長にちょっとお願いしたいんです。これができなければ、はい、結構ですと言います。この修正案に対して市長に一言質問をしたいんですが、質問を認めてもらえるでしょうか。

○議長（安達 隆君） だめです。

○18番（大石忠昭君） だめですか。

○議長（安達 隆君） はい。

○18番（大石忠昭君） それは議会のルールからそうでしょうね。そのことは議長に文句は言いませんので、撤回してもらいたいと思いますから、答弁をさせてください。

以上です。

○議長（安達 隆君） 7番、土谷信也君。

○7番（土谷信也君） 再質疑にお答えします。

撤回はいたしません。

○18番（大石忠昭君） 議長、終わります。

○議長（安達 隆君） ほかに質疑はありませんか。

（「なし」と呼ぶ者あり）

○議長（安達 隆君） 質疑なしと認め、質疑を終結いたします。

これより討論に入ります。

討論の通告がありますので、発言を許します。

18番、大石忠昭君。

○18番（大石忠昭君） 議長、ちょっといいですか。

議事進行についてちょっといいですか。

○議長（安達 隆君） はい。

○18番（大石忠昭君） 議事進行については、発言していいですか。

全国の議会では、この種の討論については、反対の討論が先、それから賛成討論、反対、賛成というように交互に討論が行われております。それで、今、討論通告、私は第31号議案の原案に賛成討論を提出しておりますが、ほかに討論をする方は、この討論というのは、今回は第31号議案の原案と修正案に対して討論ができるんですけども、討論通告ある人はいないんですか。あつたら、反対の討論から先にやってももらたうと思ひますが、どうでしょう。

○議長（安達 隆君） 反対討論は出ておりません。

○18番（大石忠昭君） 出ていない。

○議長（安達 隆君） 大石議員、質疑を続けてください。

○18番（大石忠昭君） 質疑じゃない。討論してくださいだね。

○議長（安達 隆君） あ、討論。

○18番（大石忠昭君） はい、しましょう。

日本共産党の大石忠昭でございます。私は日本共産党市議団を代表しまして、今議題になっております第31号議案に対しまして賛成討論、そして、土谷議員から提案のありました修正案に対して反対の討論をしたいと思ひます。

ご承知のように、この議案は、さきの市長選挙において、佐々木市長が、佐々木候補ですね。佐々木候補が野田候補と違って、野田候補は退職金はゼロにする。佐々木候補は退職金もゼロ、市長の給料は半額にするという公約を打ち出しました。これは、大分県の市長選挙では初めてのことだったと思ひます。2人ともがこういう大胆な公約を発表したんですね。同時に、子どもの医療費、高校までの無料化や給食代の中学までの無料化など、県下の首長がやったことのない公約なども公約をいたしました。

私は、この第31号議案というのは、市長の現任期中4年間に限って給料を半額にする。しかし、議会で議決を得ないとできないために、もうすでに4月分、5月分、6月分がちゃんと条例に基づいて支給されています。この議会できよう決まれば、7月分からの給料を半額にする、そして、4年先にもらえる自分の市長としての退職金をもらわないという条例なんです。次の市長の心配をされる声がありましたけれども、次の市長は、また選挙公約でそういう公約するかしないかは本人の自由です。誰を選ぶかも有権者の自由です。そうでしょう。

日本共産党市議団は、一般質問の冒頭にも述べましたように、佐々木市長にどういう対応するか。市長から出された条例案にしても予算案にしても、市民にとってそれはいいことについては当然賛成する。よりよくなるように積極的に提案もして協力していく。同時に、市民にとって悪いことについては、早く指摘をして早く是正させる、改善させる。反対のための反対、賛成のための賛成、そういう態度をとらないことを表明しております。私どもの議員団でも、この条例について議論をしました。宇佐の議員団とも協議をしましたけれども、当然市長の選挙公約、この市長の意思を尊重して、同意すべきではないかということになりました。確かに一部の市民の間では、市長、そんなことで生活できるかという声もあります。しかし、普通給料表を当てるのであれば、給料表を当たって半額にするのであれば、自動的に期末手当も半額になるんですけども、今回は違うんですね。特例措置なんです、この第31号議案は。だから、期末手当は減額されません。市民の皆さんはまだ理解していないと思うんですけどね。通常どおり、ことしは4月の29日から就任していますからね。通常でしたら、1年間で市長のもらえる期末手当は296万6,828円になります。だから、給料半分になっても、期末手当は296万何がしかありますから、充分生活はできるのではないかと思います。

皆さんが心配されている、市長の給料が副市長とか幹部職員よりも低かったら、本当に市長としての、ほかの人よりも何倍も仕事してもらわなのに、それができると、あるいは、県に行っても国に行っても物が言えるのかというような意見もあるようですが、でも、そんなことないんじゃないでしょうか。ちょっと水を飲みます。給料が安いから仕事ができないなどという論は通らないと思います。会社で例えていいですよ、もう市長ですから給料額が表に発表されます。会社については発表されないですね。経営が不振になったら、社長の給料を半分に減らす、ゼロにするところだってありますからね、会社は。だから、仕事ができないということはないんですよ。

それから、給料半分になったら、もう仕事をまともにせんのんじゃないか。こんなことを言う人は、普通は言わないけども、あったとしても、佐々木市長はそんなことはないと思いますよ。選挙で、相手候補と違って、30年間の県議会議員という実績を持っているんですよ。政治力を持っているんですよ。自民党から除名されましたけど、その自民党と戦うよ

うな意志を持っておるんですよ。だから、選挙で公約した以上は、30年間の経験を活かして豊後高田市民に恩返しをしたいと言うんです。給料半分でも恩返しをすると言うんだから、やってもらおうじゃないませんか。そうでしょう。だから、そういう心配をすることはないと思うんですよ。半分悪いというのは、8割がいいなんちゅうことにはならないと思うんですね。

よって、私は、計算してみましたら、市長の給料は現行2%削減しておりますので、1カ月79万3,600円です。これが半額で39万6,900円になります。それを、7月から任期終了までは45カ月あるんです。45カ月で計算しましたら1,786万5,000円給料だけで節減できることになります。退職金は4年ごとに支給されますが、例えて、永松前市長のごとくは1期4年間で幾らもらったと思いますか。2,033万5,000円です。何と4年間で約2,000万円を超える額をもらっているんです。佐々木市長はゼロでいいと言うんです。

私は、この永松市長の退職金の時は、市の職員や一般会社で働く市民に比べたら2,000万円は高過ぎるということで、せめて半額をということでありました。ゼロにしようなんて言うたことはありませんけども。最終的には15%をカット、最後は半額カットをしましたけども、お知らせしておきたいと思います。

よって、計算しましたら、市長のこの条例がきょう可決されますと、4年間の間に幾ら市長の給料関係で節減できると思いますか。合計で3,437万7,890円になります。約で3,400万円なんですよ。私は、議案質疑でも主張しましたように、この3,400万円というのは、市民のために、市民の暮らしをよくしていくために、市民の声を聞いて有効に使うべきだと思うんです。そうすれば、これを可決してもらって、これを市民に使ってもらえば、市民は喜んでもらえるんじゃないか。8割カットにして2割分だけ増幅しようというのは大きな違いになりますからね。そういうことで、私は、この市長の今回提案している条例は、原案に賛成をいたします。ぜひ議員の皆さんのご賛同を求めたいと思います。

次は、土谷議員から提案されております修正案には反対をいたします。なぜかと申しますと、市長の公約です。市長の公約に対して、議員が反対する権利は当然あります。これを否定するのじゃないんです。例えば、私は、市長の公約の日本一の磨崖仏群

をつくるということについては、まだ賛成反対態度を表明しておりません。慎重に対応したいと思っています。市長の公約が全て正しいということではないと思います。議員がいろんな意見を持つことは、それは自由なんです。今度の給料や退職金の問題についても、修正案を出すことは自由です。そのことを否定するものじゃないんです。

しかし、先程議案質疑で述べましたように、100分の50は総務委員会で反対をしました。半分に給料をする、そして退職金とあわせての条例案に反対したのが、今度は、本会議で2割カットのほうが正しいから修正案に賛成してくれということになったんですね。その根拠が、私は今の答弁の範囲では、市民の一人として100分の50が間違いで、100分の80の削減のほうが市民にとって有利だなどとは全く思いません。それよりは市長の意思を尊重してあげて、今回はやっぱり皆さんが修正案には反対してもらって、市長の原案に賛成したもののほうが、市民にとっては喜ばれるんじゃないかと思うんです。ぜひ修正案に反対、原案に賛成されるよう議員各位をお願いを申し上げまして、討論を終わります。

以上です。

○議長（安達 隆君） 以上で、通告による討論は終わりました。

ほかに討論はありませんか。

12番、河野徳久君。

○12番（河野徳久君） 皆さん、おはようございます。議席番号12番、豊翔会の河野徳久です。

第31号議案、豊後高田市長の給料月額及び退職手当の特例に関する条例の制定についての第1条中100分の50を100分の80に改める修正案に賛成の討論をいたします。

賛成の理由につきましては、4点述べたいと思います。

まず1点目です。大分合同新聞6月7日の朝刊に、佐々木市長は6月6日の議会運営委員会の後、マスコミに自身の給料カットについて、「みずから身を切る覚悟を持って、人口減少対策や観光振興に取り組む強い決意を示すため」と述べられたことが載っていました。6月14日における市長所信表明、6月20日の議案質疑、翌日の一般質問での答弁を聞き、強い決意は私も感じ取りました。

しかし、豊後高田市の年間一般会計予算は145億円ほどといたしましたときに、本市の税金収入は15%ほどであります。国や県の補助金を多くいただいて

ほしいと思います。公約を実行していくために、この先、多大なる労苦が待ち受けていると察するとき、副市長、課長の給料よりも低くなる減額には賛成できません。佐々木市長の強い決意が任期中続く、自身の給料減額分の10倍も20倍もの補助金獲得に、職員の先頭に立って走ってもらいたいと思うからであります。

2点目は、大分県内では、本市を入れて8市で市長給料の減額が実施されていますが、減額率は2%から17%のようです。市長給料を20%に減額しますと、大分県下で一番大きい減額率となります。また月額63万5,040円となり、本市の副市長の月額63万7,000円とほぼ同額になります。

3点目は、給料は生活給であるということです。市長選挙のたびに減額率を気遣うようになると、お金に余裕のある人でなくては立候補に踏み切れなくなります。知識、能力に長けていても、生活給としての給料が必要な人の意欲を奪うおそれがあります。特に、被選挙者となられた若い人の夢をくじくでしょう。

最後に、財源についてです。地方自治法第222条の2項では、予算を伴う議案においては、必要な予算上の措置が適確に講ぜられることとなるまでには、これを提出することができないことになっております。第29号議案、平成29年度豊後高田市一般会計補正予算で、共済費を含め360万7,000円の減額がされていますが、20%の給料減額で計算しても、12月までは財源がある計算になります。当初予算からの見直しをすれば、年度末に120万円ぐら이의予算不足になるものと思われます。地方自治法第112条では、議会の議員には予算案を議会に提出する権限を持たないことになっておりますので、予算不足が生じた場合、補正予算を組まれるか、または市長の専決処分ですることを佐藤総務課長に確認しております。よって、第29号議案を修正する必要はないと思います。

以上4点の理由により、議員各位には修正動議にご賛同いただけますようお願いいたしまして、私の第31号議案の修正案の賛成討論を終わります。よろしくお願いいたします。

○議長（安達 隆君） ほかに討論はありませんか。

（「なし」と呼ぶ者あり）

○議長（安達 隆君） これにて討論を終結いたします。

これより第31号議案についての採決に入ります。

採決の順序について、あらかじめ申し上げます。
まず初めに、修正案について採決をいたします。
次に、市長が提案した原案について採決を行います。

それでは、最初に、土谷信也君ほか1名から提出されました修正案について、起立により採決いたします。

議席に設置されている可・否いずれかのボタンを押した後に、問題を可とする者は起立をしてください。

お諮りいたします。

土谷信也君ほか1名から提出された修正案に賛成の諸君の起立を求めます。

(賛成者起立)

○議長(安達 隆君) 起立多数であります。

よって、土谷信也君ほか1名から提出された修正案については可決されました。

次に、ただいま修正議決した部分を除く原案について採決いたします。

議席に設置されている可・否いずれかのボタンを押した後に、問題を可とする者は起立をしてください。

修正議決した部分を除く原案に賛成の諸君の起立を求めます。

(賛成者起立)

○議長(安達 隆君) 起立多数であります。

よって、修正議決した部分を除く原案は可決されました。

日程第2、第29号議案、第30号議案及び第32号議案並びに第1号報告から第4号報告までを一括議題といたします。

これより委員長の報告を求めます。

総務委員長、中尾 勉君。

○総務委員長(中尾 勉君) 去る6月23日、総務委員会を開会し、本会議から付託されました議案3件、報告3件の審査を終了いたしましたので、その結果を報告いたします。

第29号議案、「平成29年度豊後高田市一般会計補正予算(第2号)のうち、本委員会に付託された部分」ですが、歳入予算の内容については、国庫支出金、県支出金、繰越金などで財源措置されており、補正額は、5億8,275万7,000円の増額で、補正後の予算総額は、141億7,074万7,000円となっています。

歳出の主なものは、総務費では、市長の給料及び共済費の減額、地域おこし協力隊の活動をサポート

するための経費、映画上映会を開催する経費、国民文化祭の準備等の経費が計上されています。

消防費では、老朽化した高規格救急車を更新する経費が計上されています。

次に、地方債の補正については、「道路整備事業」などの限度額の変更を行っています。

審査の中で委員より、「地域おこし協力隊の費用対効果」や「フィルムコミッションの積算根拠」「国民文化祭実行委員会の構成人数」について質疑や意見が出されました。

審査の結果、第29号議案のうち、本委員会に付託された部分については、提案の趣旨を認め、全員異議なく原案のとおり可決すべきものと決しました。

第32号議案、「豊後高田市個人情報保護条例及び豊後高田市情報公開条例の一部改正について」は、行政機関の保有する個人情報の保護に関する法律等の一部改正に伴い、個人情報に「個人識別符号」が含まれることを明確化するため、所要の規定の整備を行うものです。審査の中で委員より、「今回の改正で市民に対する影響について」質疑が出されました。

審査の結果、第32号議案については、提案の趣旨を認め、全員異議なく原案のとおり可決すべきものと決しました。

第1号報告、「平成29年度豊後高田市一般会計補正予算(第1号)について」ですが、「大分県議会議員補欠選挙」に係る予算の専決処分をしたので、地方自治法第179条第3項の規定に基づき、承認を求めるものです。

審査の中で委員より、「無投票となったことにより減額分はいくらか」などの質疑が出されました。

審査の結果、第1号報告については、報告の趣旨を認め、全員異議なく承認すべきものと決しました。

第2号報告、「豊後高田市税条例の一部改正について」は、地方税法等の一部改正に伴い、早急に改正する必要性が生じたため、平成29年3月31日に専決処分したので承認を求めるものです。

審査の中で委員より、「軽自動車税のグリーン化特例の影響額について」質疑が出されました。

審査の結果、第2号報告については、報告の趣旨を認め、全員異議なく承認すべきものと決しました。

第3号報告、「豊後高田市税特別措置条例の一部改正について」は、過疎地域自立促進特別措置法第31条の地方税の課税免除又は不均一課税に伴う措置が適用される場合等を定める省令及び半島振興法第1

7条の地方税の不均一課税に伴う措置が適用される場合等を定める省令の一部改正に伴い、早急に所要の規定の整理を行う必要が生じたため、平成29年3月31日に専決処分したので承認を求めるものです。

審査の中で委員より、「今回の改正での影響額について」質疑が出されました。

審査の結果、第3号報告については、報告の趣旨を認め、全員異議なく承認すべきものと決しました。

以上で、総務委員会審査結果の報告を終わります。

○議長（安達 隆君） 社会文教委員長、安達かずみ君。

○社会文教委員長（安達かずみ君） 去る6月26日、社会文教委員会を開会し、本会議から付託されました議案1件、報告1件の審査を終了いたしましたので、その結果を報告いたします。

第29号議案、「平成29年度豊後高田市一般会計補正予算（第2号）のうち、本委員会に付託された部分」ですが、歳出の主なものは、衛生費では、胃がん検診の検査項目に胃内視鏡検査を新たに実施する経費や、自治会単位でごみの減量にチャレンジする取り組みを行う経費等が計上されています。

教育費では、小中学校の校務用パソコンを更新する経費等が計上されています。

審査の中で委員より、「ごみ減量チャレンジ事業における今後の予定と減量の効果について」や「小・中学校のパソコン更新における今後の計画について」質疑がありました。

審査の結果、第29号議案のうち、本委員会に付託された部分については、提案の趣旨を認め、全員異議なく原案のとおり可決すべきものと決しました。

第4号報告、「豊後高田市国民健康保険税条例の一部改正について」は、地方税法施行令の一部改正に伴い、早急に所要の規定の整備を行う必要が生じたため、平成29年3月31日に専決処分したので承認を求めるものです。

改正の内容については、「保険税の減額措置に係る軽減判定所得の算定方法を改正するもの」です。

審査の中で委員より、「今回の改正における市民への影響について」質疑がありました。

審査の結果、第1号報告については、報告の趣旨を認め、全員異議なく承認すべきものと決しました。

以上で、社会文教委員会審査結果の報告を終わります。

○議長（安達 隆君） 産業建設委員長、阿部輝之君。

○産業建設委員長（阿部輝之君） 去る6月27日、産業建設委員会を開会し、本会議から付託されました議案2件の審査を終了いたしましたので、その結果を報告いたします。

第29号議案、「平成29年度豊後高田市一般会計補正予算（第2号）のうち、本委員会に付託された部分」ですが、歳出予算の内容については、農林水産業費では、白ねぎの作付け面積の規模拡大を促進するため、農地の土地改良を行う経費などが計上されています。

商工費では、若者や移住者に対し創業支援をするもので、対象者の増により増額する経費や石造文化をテーマにした観光振興について調査・検討を行う経費などが計上されています。

土木費については、「社会資本整備総合交付金事業」に要する経費などが計上されています。

審査の中で委員より、「奨学金返済の助成の対象や要件について」や「旧庁舎跡地の公園整備の土地購入の場所と面積について」質疑がありました。

審査の結果、第29号議案のうち、本委員会に付託された部分については、提案の趣旨を認め、全員異議なく原案のとおり可決すべきものと決しました。

第30号議案、「平成29年度豊後高田市特定環境保全公共下水道事業特別会計補正予算（第1号）」は、真玉処理区、香々地処理区に係る全体計画及び事業計画の変更に要する経費が計上されています。

補正額は、1,511万円の増額で、補正後の予算総額は、2億1,715万4,000円となっています。

審査の結果、第30号議案については、提案の趣旨を認め、全員異議なく原案のとおり可決すべきものと決しました。

以上で、産業建設委員会審査結果の報告を終わります。

○議長（安達 隆君） 以上で、委員長の報告を終わります。

これより、ただいまの委員長の報告に対する質疑に入ります。

質疑はありませんか。

18番、大石忠昭君。

○18番（大石忠昭君） 日本共産党の大石であります。産業建設委員長に1点だけお尋ねをしたいと思います。

今委員長報告をるお聞きしましたが、その中で、市の基幹作物であります白ねぎの産地拡大の予算で、850万円が異議なく可決されるということなんですが、

私ども共産党の議員がその委員会におりませんので、詳しい内容を聞くことができなかったんですけども、同じような事業が昨年度でも実施をされたんですけども、昨年度の場合は補助金という形で交付されました。今度の場合、850万円が工賃、請負費になっているんですね。それで、その造成をして、いわゆる水田をネギ畑に変える事業なんですけれども、これが市のほうが買収している、あるいは市が買い上げている土地を市の予算で業者に請負契約で発注するというならよくわかるんですけども、所有者はAさん、それを借りて耕作する方はBさんという形になっていると思うんですけどね。それで、市の請負契約で市が入札をして業者を選んで工事をして、受益者あるいは耕作者が活用できるということになるのかということで、ちょっと疑問を持っているものだからね。その辺の何か説明があったのか、議員の中からこういう疑問を持つのは私だけなのかね。ちょっと私は疑問を持っているんですよ。土地改良区に基づいて土地改良区ができて、土地改良区の事業を市が肩がわりしてやるというのなら、土地改良区をつくっているのか、あるいは負担金条例があって、予算では35万円負担金を出すようになっているんですけどね。それはわかるけど、その辺もやっぱり所管の委員会ですから、充分市民が納得できるような審議はあったと思うんですけど、今のところは何も質問があったようではありませんのでね。執行部のほうからこの辺、同じ事業をやるのに去年は補助金、今度は請負費で850万円がなぜなのかね。その辺皆さんが同意されて、よく納得できて、この第29号議案に賛成したのかどうかをお尋ねいたします。

以上です。

○議長（安達 隆君） 産業建設委員長、阿部輝之君。

○産業建設委員長（阿部輝之君） お答えをいたします。

意見とかそういうのはございませんでした。

以上です。

○議長（安達 隆君） 18番、大石忠昭君。

○18番（大石忠昭君） もう一度お尋ねしますが、今、阿部委員長から意見はございませんでした、ということでございます。私は長く述べましたが、私が理解していないだけならいいんですけど、産業建設委員のメンバーの皆さんも理解したんだろうかとちょっと疑問を持つんですよ。私は意見があったかどうか聞いたんじゃないんです。委員長

報告は、それは事務局がつくった原稿でしょうけど、読み上げたのを聞いておましてね。このことについては何ら質問があったとか、あるいは答弁があったとかいうことがないので、質問がなかったちゅうのはわかったんですよ。だから、私が聞いたのは、執行部のほうからこの予算について、同じ事業をやるのに去年は補助金、今度は請け負いに変わっているけんね。85万円じゃなくて850万円ですよ。地元負担が35万円かかるとなっているでしょう。入札で35万円がもっと安くなるかと思うだけけどね。大事な問題なので、やっぱり議員としてはチェックが要るんですよ。だから、質問がなかったんだけど、冒頭にこうこう説明があったから、もう議員は質問のラインを納得できてやったということもあっていいわけですね。それがわからないから聞いたんですけど、ただ意見がなかったということがわかったんですけど、議員の意見がなかったのはわかったんですけど、執行部からその辺の違いが説明されて、なるほどなということになったかどうかちゅうのは、まだ今の答弁でわからないんで、その辺どうですか。

○議長（安達 隆君） 産業建設委員長、阿部輝之君。

○産業建設委員長（阿部輝之君） 執行部から説明ありましたけど、委員からは質問はありませんでした。

○議長（安達 隆君） 18番、大石忠昭君。

○18番（大石忠昭君） もう一回しか質疑ができませんのでね。私だけならいいんですよ。私が理解できんというのなら、少しはいいと思うんですけども、ほかの議員は理解できとるんでしょうかね。今の答弁も、私の質問に答えていないんですよ。質問がなかったけど、執行部から答弁がありましたというから、私はその内容を聞いているんです。去年とことしの違いについて議員の皆さんが納得できるような説明があったんですか。あったんなら、今回の請負費というのはこういうことなの。私が疑問を持つちゅうのは、市が借りた土地、市が買収した土地じゃないのに、市が請負契約でそれを造成することができるんですかという疑問を持っているから聞いているんですよ。「それは大石が疑問を持つほうがおかしいんや。何ら問題ない」という説明があったんなら、あったでいいんですよ。それやったら、委員長として「こういう説明があったから、大石議員、そげ心配することはないんじゃ。賛成すりゃいいんじゃ」

と言うんなら、それはわかりますよ。そういう答弁がないということは、私が疑問に思っているようなことは一切説明がなかったんじゃないですか。あったんなら内容を、ちょっと休憩とってでもいいから、はっきりさせてくださいよ。

○議長（安達 隆君） しばらく休憩します。

午前11時13分 休憩

午前11時14分 再開

○議長（安達 隆君） 休憩前に引き続き会議を開きます。

産業建設委員長、阿部輝之君。

○産業建設委員長（阿部輝之君） 大石議員の言われるような説明はございませんでした。ほかのことでいろいろなことでは説明があったんですけど、今、大石議員が言われるような何に対してと、いろいろなそういう説明はございませんでした。

以上です。

○18番（大石忠昭君） 議長、終わります。

○議長（安達 隆君） ほかに質疑はありませんか。

（「なし」と呼ぶ者あり）

○議長（安達 隆君） これにて質疑を終結いたします。

これより討論に入ります。

討論の通告はありませんでした。

討論はありませんか。

（「なし」と呼ぶ者あり）

○議長（安達 隆君） 討論なしと認め、討論を終結いたします。

ただいまから採決に入ります。

お諮りいたします。

お手元に配付してあります採決表の一括採決するものの中の各議案は、委員長の報告のとおり決することにご異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（安達 隆君） ご異議なしと認めます。

よって、採決表の一括採決するものの各議案は、委員長の報告のとおり決定をいたしました。

○議長（安達 隆君） 日程第3、第33号議案を議題といたします。

提案理由の説明を求めます。

市長、佐々木敏夫君。

○市長（佐々木敏夫君） 提案理由の御説明を申し上げます。

第33号議案は、副市長の選任についてでございます。現在空席となっている副市長に、堤隆氏を選

任いたしたいので、同意を求めるものでございます。

堤氏の略歴につきましては、お配りした資料に記載のありますとおり、昭和53年から大分県職員として勤務され、特別職である企業局長まで歴任し、大分県の発展のためにご尽力されております。

その豊富な知識や経験、そして、これまで培われた行政手腕とその人格は、本市の副市長として、適任であると考えerるものでございます。

なお、御同意いただいた後は、7月1日付の選任を考えております。

何とぞ慎重審議の上、御協賛賜りますようお願い申し上げます。

○議長（安達 隆君） お諮りいたします。

本案については、委員会の付託を省略したいと思います。これにご異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（安達 隆君） ご異議なしと認めます。

よって、第33号議案については委員会の付託を省略することに決しました。

これより質疑に入ります。

質疑はありませんか。

18番、大石忠昭君。

○18番（大石忠昭君） 日本共産党の大石でございます。今提案されました副市長の議案、第33号議案に質疑をいたします。

1点は、佐々木市長からこの堤隆氏の経歴についてご説明がありました。その中で、1年間だけ県の企業局長としてご活躍されたということもわかりました。豊後高田市において、佐々木市長は人口減少を食い止めたいと、何とか人口増に取り組みたいということが大きな公約の柱になっておりますので、一般的には、「大石さん、市の職員の中で副市長になるような者おらんのんかいえ」という、ひらくちで言われます。でも、県との関係でやっぱりパイプを太くすることが求められていると思いますので、県から優秀な職員が来れば、佐々木市政にとっても有利かなというふうに期待をしておりました。

よって、一つの質問は、この同じ県の職員の派遣でも、企業局長の経験者が副市長になることは、一般的に見たら、中核工業団地があと4区画、たしか約6町ぐらい空きがあるんですよね。ここの企業誘致について、永松市長に最後の1年間頑張れと言われてましたけど、とうとうこの4区画を埋めることができなかったんですよ。大いに期待したいと思うんですけど、市長自身は、この方が副市長になること

は、高田の企業誘致を促進する上で有利になるというふうなお考えで提案したのでしょうか。これが一つね。

2つ目は、県のほうに依頼をしているというのを聞いておりましたが、何人かの、2人なり3人かで「佐々木市長どうですかと、こういうメンバーで考えられるんだが、あんたのいいのは誰かい」というような事前の協議があってこの人が選ばれたのか、いや、もう最終的には知事がこの人が高田の佐々木市長の副市長には適任だという形で推薦を受けたのか、その辺もちょっと聞きたいところなんで聞きます。

もう一点は、この方を見ましたら、今現在、大分市の方ですね。堤さんというけん、香々地の出身かなと思ったんだけど、どうも大分市の生まれのようなんですね。よって、きょう議決されましたら、7月1日からということですから、丸々4年間で任期になるんですね、副市長の場合。よって、この方は家族ぐるみで豊後高田市に移住されると思うんですけども、何人家族の方なのか。家族ぐるみで見えれば、やっぱり市長の公約であります人口増につながっていくと思いますので、大きいと思うんですよ。じゃけえ、やっぱりそれは、適正なアパートなり個人住宅なり早く見つけてあげて、早く高田の住民になるようにしてもらったほうが、本当に高田市民となじんで佐々木市長を助けて、やっぱり市民から期待されるような行政運営ができると思いますんで、ちょっと市民の前に明らかにしてもらえんでしょうか。

以上であります。

○議長（安達 隆君） 市長、佐々木敏夫君。

○市長（佐々木敏夫君） 大石議員さんの質問に答えたいと思います。

堤隆さんは、総務部や農林水産、また教育委員会、いろいろな経験をなされておる方でありまして、私も議会時代に面識もありますし、そういう意味では立派な人だと思っております。

また、もう一つは、私は県のほうにお願いした方でありまして、特定人物については私からは申し上げておりませんが、この人でどうでしょうかというお話であります。そういうことで決めさせていただきました。

また、単身赴任で今回とりあえず来るようになっておりますし、家族の場合は、子供が大分におるということで、奥さんはこちらのほうには今の段階で

は来るように、子供と一緒に大分で過ごすようになっております。そういうことで理解をさせていただきたいと思います。

○議長（安達 隆君） 18番、大石忠昭君。

○18番（大石忠昭君） 長く申しませんが、今答弁がなかったね。最終的には企業局長を1年間されて、県の職員を退任されとる方なんですよね。だから、企業誘致も一つの課題ですが、ほかの人よりは堤さんのほうが副市長に就任されたら、企業誘致が前に進むのかなという期待を持つんですけども、その点、市長、やっぱり期待を持てるというふうに認識してよいでしょうか。

以上です。

○議長（安達 隆君） 市長、佐々木敏夫君。

○市長（佐々木敏夫君） 大石議員さんからのお話ありますが、企業局長は、企業誘致担当とはちょっと全く関係ないポストであります。企業誘致のほうは商工労働部のほうになりますので、そういうことでご理解をいただけたらありがたいと思います。

○議長（安達 隆君） ほかに質疑はありませんか。

2番、中尾 勉君。

○2番（中尾 勉君） 議席番号2番、新政会の中尾でございます。21日の一般質問でも、副市長の件についてはご質問させていただきました。早々に本議会において追加提案をしていただきまして、本当にありがとうございます。

一般質問でもお聞きをしました、やはり市民と職員のパイプ役という部分、非常に大きい部分だろうというふうに思います。長年にわたって大分県のほうで行政に携わったという部分の経験は非常にいいと思うんですけども、やはり危機管理という部分、大分市出身という部分で、やはり地理的な問題、危機管理の面からいいますと、地域の事情などにもなかなか精通をされていないだろうというふうに思うんですけども、即戦力という形で私は考えておりましたものですから、やはり市長としてその部分について、副市長の選任に当たってはどのようなふうを考えておられるのか、今後対応についてはどのようなふうを考えておられるのか質疑いたします。

○議長（安達 隆君） 市長、佐々木敏夫君。

○市長（佐々木敏夫君） 中尾議員さんの質疑ですが、まず高田に居を構えていただくということで話が進んでおります。一日も早く高田の事情を理解できたらありがたいなと思っております。とにかくやる気のある方でありまして、そういう意味では心

配はいたしておりません。よろしくお願いいたします。

○2番（中尾 勉君） 終わります。

○議長（安達 隆君） ほかに質疑はありませんか。
（「なし」と呼ぶ者あり）

○議長（安達 隆君） これにて質疑を終結いたします。

これより討論に入ります。

討論はありませんか。

（「なし」と呼ぶ者あり）

○議長（安達 隆君） 討論なしと認め、討論を終結いたします。

これより第33号議案を採決いたします。

本案は、これに同意することにご異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（安達 隆君） ご異議なしと認めます。

よって、第33号議案については、これに同意することに決しました。

○議長（安達 隆君） 日程第4、第34号議案を議題といたします。

提案理由の説明を求めます。

市長、佐々木敏夫君。

○市長（佐々木敏夫君）

提案理由の御説明を申し上げます。

第34号議案は、教育委員会委員の任命についてでございます。本年7月1日をもって任期が満了する教育委員会委員に、高井郁朗氏と大嶽由美子氏を再任いたしたいので、同意を求めるものでございます。

何とぞ慎重審議の上、御協賛賜りますようお願い申し上げます。

○議長（安達 隆君） お諮りいたします。

本案については、委員会の付託を省略したいと思います。これにご異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（安達 隆君） ご異議なしと認めます。

よって、第34号議案については、委員会の付託を省略することに決しました。

これより質疑に入ります。

質疑はありませんか。

（「なし」と呼ぶ者あり）

○議長（安達 隆君） 質疑なしと認め、質疑を終結いたします。

これより討論に入ります。

討論はありませんか。

（「なし」と呼ぶ者あり）

○議長（安達 隆君） 討論なしと認め、討論を終結いたします。

これより第34号議案を採決いたします。

本案中、高井郁朗氏を教育委員会委員の任命に同意することにご異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（安達 隆君） ご異議なしと認めます。

よって、高井郁朗氏を教育委員会委員の任命に同意することに決しました。

次に、お諮りいたします。

本案中、大嶽由美子氏を教育委員会委員の任命に同意することにご異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（安達 隆君） ご異議なしと認めます。

よって、大嶽由美子氏を教育委員会委員の任命に同意することに決しました。

○議長（安達 隆君） 日程第5、第35号議案を議題といたします。

提案理由の説明を求めます。

市長、佐々木敏夫君。

○市長（佐々木敏夫君）

提案理由の御説明を申し上げます。

第35号議案は、公平委員会委員の選任についてでございます。本年6月30日をもって任期が満了する公平委員会委員に、佐藤ひとみ氏を再任いたしたいので、同意を求めるものでございます。

何とぞ慎重審議の上、御協賛賜りますようお願い申し上げます。

○議長（安達 隆君） お諮りいたします。

本案については、委員会の付託を省略したいと思います。これにご異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（安達 隆君） ご異議なしと認めます。

よって、第35号議案については、委員会の付託を省略することに決しました。

これより質疑に入ります。

質疑はありませんか。

（「なし」と呼ぶ者あり）

○議長（安達 隆君） 質疑なしと認め、質疑を終結いたします。

これより討論に入ります。

討論はありませんか。

（「なし」と呼ぶ者あり）

○議長（安達 隆君） 討論なしと認め、討論を終結いたします。

これより第35号議案を採決いたします。

本案は、これに同意することにご異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（安達 隆君） ご異議なしと認めます。

よって、第35号議案については、これに同意することに決しました。

○議長（安達 隆君） 日程第6、第36号議案を議題といたします。

提案理由の説明を求めます。

市長、佐々木敏夫君。

○市長（佐々木敏夫君）

提案理由の御説明を申し上げます。

第36号議案は、固定資産評価審査委員会委員の選任についてございまして、本年6月30日をもって任期が満了する3名の固定資産評価審査委員会委員に、塩崎愛子氏を再任し、尾造正直氏、加祐智子氏を選任したいので、同意を求めるものでございます。

何とぞ慎重審議の上、御協賛賜りますようお願い申し上げます。

○議長（安達 隆君） お諮りいたします。

本案については、委員会の付託を省略したいと思います。これにご異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（安達 隆君） ご異議なしと認めます。

よって、第36号議案については、委員会の付託を省略することに決しました。

これより質疑に入ります。

質疑はありませんか。

（「なし」と呼ぶ者あり）

○議長（安達 隆君） 質疑なしと認め、質疑を終結いたします。

これより討論に入ります。

討論はありませんか。

（「なし」と呼ぶ者あり）

○議長（安達 隆君） 討論なしと認め、討論を終結いたします。

これより第36号議案を採決いたします。

本文中、塩崎愛子氏を固定資産評価審査委員会委員の選任に同意することにご異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（安達 隆君） ご異議なしと認めます。

よって、塩崎愛子氏を固定資産評価審査委員会委員の選任に同意することに決しました。

本文中、尾造正直氏を固定資産評価審査委員会委員の選任に同意することにご異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（安達 隆君） ご異議なしと認めます。

よって、尾造正直氏を固定資産評価審査委員会委員の選任に同意することに決しました。

本文中、加祐智子氏を固定資産評価審査委員会委員の選任に同意することにご異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（安達 隆君） ご異議なしと認めます。

よって、加祐智子氏を固定資産評価審査委員会委員の選任に同意することに決しました。

○議長（安達 隆君） 日程第7、意見書案第1号を議題といたします。

提案理由の説明を求めます。

8番、近藤紀男君。

○8番（近藤紀男君） 「教職員定数改善と義務教育費国庫負担制度2分の1復元を求める意見書(案)」について、提案理由の説明を申し上げます。

学校現場における課題が複雑化・困難化する中で子どもたちのゆたかな学びを実現するためには、教材研究や授業準備の時間を十分に確保することが不可欠です。そのためには教職員定数改善などの施策が最重要課題となっています。（公益財団法人）連合総合生活開発研究所の教職員の働き方・労働時間に関する報告書では、7割から8割の教員が一月の時間外労働が過労死ラインの80時間となっていること、1割がすでに精神疾患に罹患している可能性が極めて高いことなどが明らかにされました。明日の日本を担う子どもたちを育む学校現場において、教職員が人間らしい働き方ができるための長時間労働是正が必要であり、そのための教職員定数改善も欠かせません。

義務教育費国庫負担制度については、小泉政権下の「三位一体改革」の中で国庫負担率が2分の1から3分の1に引き下げられました。いくつかの自治体においては、厳しい財政状況の中、独自財源による定数措置が行われていますが、地方自治体の財政を圧迫しています。国の施策として定数改善にむけた財源保障をし、子どもたちが全国どこに住んでも、一定水準の教育を受けられることが憲法上の要請です。

ゆたかな子どもの学びを保障するための条件整備

は不可欠です。

つきましては、2018年度政府予算編成において2つの事項が実現されるよう、国の関係機関へ要望したいので、地方自治法第99条の規定に基づく意見書として提出していただきますよう、お願いするものでございます。

以上、議員各位のご協賛を賜りますよう、お願い申し上げます。

○議長（安達 隆君） お諮りいたします。

本案については、委員会の付託を省略したいと思います。これにご異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（安達 隆君） ご異議なしと認めます。

よって、意見書案第1号については、委員会の付託を省略することに決しました。

これより質疑に入ります。

質疑はありませんか。

（「なし」と呼ぶ者あり）

○議長（安達 隆君） 質疑なしと認め、質疑を終結いたします。

これより討論に入ります。

討論はありませんか。

（「なし」と呼ぶ者あり）

○議長（安達 隆君） 討論なしと認め、討論を終結いたします。

これより意見書案第1号を採決いたします。

本案は原案のとおり決することにご異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（安達 隆君） ご異議なしと認めます。

よって、意見書案第1号については、原案のとおり可決されました。

○議長（安達 隆君） 日程第8、選挙管理委員の選挙を行います。

選挙をすべき委員の数は4名であります。

お諮りいたします。

選挙の方法につきましては、地方自治法第118条第2項の規定により、指名推選で行いたいと思います。これにご異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（安達 隆君） ご異議なしと認めます。

よって、選挙の方法は指名推選で行うことに決しました。

お諮りいたします。

指名の方法は、議長が指名することにしたい

と思います。これにご異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（安達 隆君） ご異議なしと認めます。

よって、指名の方法は議長が指名することに決しました。

選挙管理委員に清末武司君、山田敏美君、木藤信一君、稲葉由美子君を指名いたします。

お諮りいたします。

ただいま指名いたしました清末武司君、山田敏美君、木藤信一君、稲葉由美子君を選挙管理委員の当選人と定めることにご異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（安達 隆君） ご異議なしと認めます。

よって、ただいま指名いたしました諸君が選挙管理委員に当選されました。

○議長（安達 隆君） 日程第9、選挙管理委員補充員の選挙を行います。

選挙をすべき補充員の数は4名であります。

お諮りいたします。

選挙の方法につきましては、地方自治法第118条第2項の規定により、指名推選で行いたいと思います。これにご異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（安達 隆君） ご異議なしと認めます。

よって、選挙の方法は指名推選で行うことに決しました。

お諮りいたします。

指名の方法は、議長が補充の順序により指名することにしたいと思います。これにご異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（安達 隆君） ご異議なしと認めます。

よって、指名の方法は、議長が補充の順序により指名することに決しました。

選挙管理委員補充員に、補充の順位で第1順位、實常重信君、第2順位、松樹秀芳君、第3順位、渡邊義勝君、第4順位、安本ふみ子君を指名いたします。

お諮りいたします。

ただいま指名いたしました第1順位、實常重信君、第2順位、松樹秀芳君、第3順位、渡邊義勝君、第4順位、安本ふみ子君を選挙管理委員補充員の当選人と定めることにご異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（安達 隆君） ご異議なしと認めます。

よって、ただいま指名いたしました諸君が、順序のとおり選挙管理委員補充員に当選されました。

以上で、本定例会に付託・付議されました案件の審議は全部終了いたしました。

12番、河野徳久君。

○12番（河野徳久君） 大石議員さんの第31号議案における質疑の時に、固有名詞が使われて、品位を傷つけられるような発言があったと私は感じております。議会ももうこれで閉じますが、議事録を立ち上げて、もしそういう私の考えるようなことば遣いだったならば、修正するなり何らかの方法をとっていただきたいと思います。よろしくお願いします。

○議長（安達 隆君） わかりました。

18番、大石忠昭君。

○18番（大石忠昭君） 私の発言に意見が出されましたけど、意見を出す以上、私の発言のどの部分が問題と、だから、議長としてどうしようというならわかりますよ。その抽象的な発言を議長がわかりましたちゅうことは、どういうことなんですか。

○議長（安達 隆君） 12番、河野徳久君。

○12番（河野徳久君） 私の考えが甘かったということです。やはり固有名詞が使われたということは私も確認できていないし、それが中傷誹謗に当たるか何かちゅうのは、まだ確認できないから議長にお願いしたんであって、自分を守るために次から次言いなさいっていったら、私も言えませんよ、議事録を精査しない限り。そういうことです。

○議長（安達 隆君） 後々議事録を審査し……。

○18番（大石忠昭君） 議長、ちょっと発言させてください。

○議長（安達 隆君） 18番、大石忠昭君。

○18番（大石忠昭君） 議事進行について、この種の発言があったのは、私の長い経験で初めてなんです。議長の権限というのは、18人の議員の中で、質問の中で、それは問題発言をした場合には、議長が注意することができます。私ども議長の注意に答えなければならぬと思うんです。そういう場合もあります。さらには、あるいは、私の発言が問題なら、問題発言を問題にすることもできますわね。でも、軽微なことについては議長が判断で、いわゆる会議録の修正もすることもできるんです。いろんな議長権限を持っているんです。それは言われなくても議長ならば、安達議長の場合にも3年目になりましたからね。それぐらいのことは言われなくても議長が立派に処理できると私は信じております

が、それでいいですか。

○議長（安達 隆君） 後ほどよろしく審査して、判断をくだしたいと思います。いいですか。

○18番（大石忠昭君） はい。

○議長（安達 隆君） 7番、土谷信也君。

○7番（土谷信也君） 今、大石議員のお話にあったんですが、私が質疑の回答者ということで、その時に申し述べなかったんですが、もう皆さんお聞きのとおり、市長が給料削減のことをもう議会と話はできておって、とった後、それを否定するんじゃないかと、そういうお話がありました。私もその時点でそういうお話をしたかったんですが、答弁者ということで答弁だけにさせていただきましたけど、これは大変なことばじゃないかと思っております。これについて本当に根拠が、そういうのがあって、私または佐々木市長に対しても大変失礼なことばだと私は感じております。答弁の時に言えなかったということで、今のこの時点でお話をさせていただきました。

○18番（大石忠昭君） 議長、いいですか。今のこのことに関連しまして、議事進行。議長、いいですか。発言を許してください。私の名前出ましたんで。

○議長（安達 隆君） 18番、大石忠昭君。

○18番（大石忠昭君） 発言を許していただきましたので、発言します。

今、土谷議員から私の名前が出されて議論がありましたけれども、私は、そういう事実はないと確信を持って言えます。私のことばで言ったら、そういう意見があるけども、そんなことはないよという形で、私はそういう声があるけども、市長や議員を守る立場から発言したつもりでございます。よって、そういう正確でない発言、議会運営委員長なる者が、ちゃんとメモもなく、それを確認しないで、そういう何か私の発言に問題があって、それに答える答弁しなかったから云々などということのほうで、やっぱり議会運営委員長としてこの場で発言するのは、好ましい発言ではないというふうに私は思いますが、議長、どう思いますか。

○議長（安達 隆君） 先程申し述べたように、後ほど精査して結論を出したいと思います。

以上で、本定例会に付議された案件の審議は全部終了いたしました。

これをもちまして、平成29年第2回豊後高田市議会定例会を閉会いたします。

午前11時51分 閉会

6 月 29 日

地方自治法第123条第2項の規定によりここに署名
する。

豊後高田市議会議長 安 達 隆

豊後高田市議会議員 井ノ口 憲 治

豊後高田市議会議員 阿 部 輝 之